

**濟州島 100kmレース、
韓日の視覚障害ランナーが伴走者たちとともに挑戦
～障害を越えて、国や文化を越えて～**



「互いに特性の異なるランナーたちが、障害の壁を越えて、国や文化の壁を越えて、ひとつの目標を目指すことで一体感を得よう、そして示そう」

---こんな目的を掲げて、2017年3月11日、韓国・濟州島で開催された100kmマラソン大会「濟州島 国際ウルトラマラソン 2017」に、韓日合同ランニングチームが挑戦しました。

韓国と日本の視覚障害ランナー2名には、それぞれ国の異なる伴走者がつきました（※1ご参照ください）。

結果は、日本の視覚障害ランナー、宮城好子選手が感動の完走を果
ヨム・ドンチュン選手は涙のリタイアでした。ふたつのドラマ
がありました。

宮城選手のタイムは14時間53分。

韓国の伴走者イ・ドフィ選手とともに制限時間15時間をクリア
しました。イ選手は65歳のベテランランナー、韓国ウルトラ
マラソン連盟の理事です。

「ヨッコさん（宮城選手）を必ず完走させる」

前夜祭で宣言した通り、力強いサポートで約束を果たしました。

宮城選手はイ選手を信じ、最後の80kmを過ぎてからはロープ
を外して腕を直接つかみながら、上り坂も走り続けました。制限時
間7分前に見事ゴールしたあとは、その場で倒れこみました。すべ
ての力をふり絞ったのでしょうか。



どこまでも続く濟州島の道
イ・ドフィ&宮城好子



憔悴したまま60kmに向かう

ヨム・ドンチュン&木村泰子、吉田雅子

ヨム選手は途中で胃の具合を悪くし、何度ももどし
ながら走り、何とか73kmにたどり着きましたが、そこ
でゼッケンを外しました。

ヨム選手には、ふたりの伴走者、木村泰子選手、吉田
雅子選手がつきました。「僕がリタイアしたのは、ふ
たりのせいじゃない。気にしないでほしい」

ヨム選手がふたりに向けて発した言葉です。

最後まで励ましあい、気づかいながら走りました。

いま韓国と日本の関係は必ずしもよくありません。嫌なニュースばかりが流れる中で、ホットする話題をひとつ提供することができました。その話題が、障害を障壁とせず乗り越えようとする、ウルトラランナーたちの力によって示されました。とりあえず所期の目標は達成できたと思います。

プロジェクトを見守ってくださったみなさまには心から



張、木村、ヨム、宮城、イ、吉田

感謝申し上げます。応援ありがとうございました。

【放送番組】

*このプロジェクトをNHK（日本）とKBS（韓国）が取材し紹介してくれました。

NHKワールド「News Room TOKYO」（英語）

<http://www3.nhk.or.jp/nhkworld/newsroomtokyo/aired/20170316.html>

KBSニュース（韓国語）

<http://mn.kbs.co.kr/mobile/news/view.do?ncd=3443544>

【韓日合同ランニングチーム】(※1)

ランナー：宮城好子（日本・視覚障害）&イ・ドフィ（韓国・伴走）

ヨム・ドンチュン（韓国・視覚障害）&木村泰子（日本・伴走）、吉田雅子（日本・伴走）

サポート：西川雅明（日本・伴走）、張成道（日本／韓国・伴走）、

【済州島 国際ウルトラマラソン 2017】

- 主催 KUMF（韓国ウルトラマラソン連盟）
- 日時 2017年3月11日（土）
スタート6時（済州タブドン公園 Tapdong Park）
ゴール21時（西帰浦ワールドカップ競技場 World Cup Stadium）
- 距離 100km（制限時間15時間）
<http://eng.kumf.kr/home/gd/2017/guide02.php>
- 参加者 約300人（31か国）

【視覚障害ランナー】

- 宮城好子（54歳）
住所 埼玉県滑川町
障害 全盲+右耳難聴
- ヨム・ドンチュン（56歳）
住所 ソウル市
障害 弱視

【ウルトラ・チャレンジャーズ・ネットワーク】

- 任意団体 障害を持ちながらウルトラマラソンやトレイルランに挑戦するランナーを応援するプロジェクト。
<http://ultra-challengers.com/>

○代表 西川雅明

○実績 2016.11 義足ランナートレラン（神流マウンテン）／2015.11 視覚障害者ウルトラ（KOREA CUP 100km）



Ultra Challengers Network

ウルトラ・チャレンジャーズ・ネットワーク